Check Point 4

今後の運用方針

今後の運用方針は、投資家がファンドを継続して保有するかどうかを検討するうえで重要な判断材料となります。これまでファンドが掲げていた運用方針に変化がないか、運用方針に変化があったとしたら、それが自分の投資目的と合っているかを確かめることができます。

今後の運用方針について

当ファンドにつきましては、＊＊＊＊＊
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

FPからひと言

経済に影響を与えるようなイベントが起こると、一時的に運用方針を変えるファンドもありますので、必ずチェックしましょう。金融市場で大きなニュースがあったときなどには、運用会社が発行する**マンスリーレポート**やよりタイムリーに発行される**臨時レポート**で、ファンドへの影響などを確認するとよいでしょう。



KEY WORDS 用語解説

基準価額
ファンドの1口当たりの値段を基準価額といいます。「口（くち）」とはファンドの購入単位のことです。1口=1円で運用を開始し、その後は運用成果によって価額が変動していきます。ホームページや新聞などでは1万口当たりの基準価額が公表されています。
基準価額＝純資産総額／受益権総口数

純資産総額
純資産総額は、ファンドの資産総額（投資対象銘柄の時価総額、利息・配当収入、保有している現金などの合計）から負債（費用・未払い金など）を差し引いた金額で、ファンドの大きさを表します。純資産総額は1日1回算出され、ファンドの保有銘柄の値動きや受益権口数の増減によって日々変動します。

騰落率
一定期間のなかで、ファンドの基準価額がどの程度変動したかを示す数値です。例えば、ファンドの基準価額が1年間で10,000円から11,000円に値上がりした場合は、同期間中の騰落率は+10%になります。ファンドの基準価額が1年間で10,000円から9,000円に値下がりした場合は、同期間中の騰落率は-10%になります。

ベンチマーク
運用実績を評価・測定するための基準となる指標のことです。例えば、日本株の運用では、TOPIX（東証株価指数）などがベンチマークとして多く用いられています。ファンドによっては、「○○を上回ることを目指します」のようにベンチマークに対してどのような運用を目指すかを運用方針として示しているものもあります。

分配金（収益分配金）
ファンドの運用成果を各投資家の口数に応じて決算時に分配するお金のことです。運用状況によっては支払われないこともあります。追加型株式投資信託の収益分配金には課税扱いの「普通分配金」と非課税扱いの「元本払戻金（特別分配金）」があります。収益分配金は、そのファンドの全ての投資家に同じ金額が支払われますが、受益者（投資家）それぞれの購入時の基準価額（個別元本）により「普通分配金」と「元本払戻金（特別分配金）*」に分けられます。

*元本払戻金（特別分配金）
受益者（投資家）が追加型株式投資信託の収益分配金を受け取る際、収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の購入時の基準価額（個別元本）を下回っている場合には、その下回る部分の額は「元本の一部払い戻しに相当する部分」となります。この下回る部分の額を「元本払戻金（特別分配金）」といいます。

分配金再投資基準価額
税引前の分配金が分配時に再投資されたものとみなして計算された基準価額を指します。通常、ファンドは分配金を支払うことで純資産総額が減少し、基準価額は下落します。そのため、分配方針の異なるファンドを同じ条件で比較する場合は、分配金再投資基準価額を活用します。

ポートフォリオ
金融資産の組み合わせという意味です。ファンドはそれぞれ、どのようなポートフォリオで運用するかが決まっています。債券のみ、株式のみ、不動産投信（リート）のみのほかに、株式と債券、株式と債券と不動産投信（リート）のように複数の資産を組み合わせて運用するものもあります。また投資信託に投資するファンドもあり、その場合は運用報告書に投資先のファンド名が記載されています。

マンスリーレポート
1ヵ月間のファンドの運用状況をまとめたレポートです。ファンドの基準価額の推移や騰落率などが載っています。運用報告書は半年あるいは1年ごとに発行されるのに対し、マンスリーレポートは月に1度の発行なのでより新しい情報を得ることができます。ファンドを保有していなくても、運用会社や販売会社のホームページで見ることができます。ファンドによっては、毎週発行のウィークリーレポートもあります。

売買委託手数料
ファンドが株式などを売買する際にかかる手数料です。資金の流出入の大きさや組入資産の入れ替えの頻度によって、ファンドごとに異なります。売買委託手数料は、信託報酬と同様、ファンドの資産から差し引かれます。

監査費用
ファンドは定期的に計理が正しく行われているかの監査を受けるよう義務付けられています。この監査にかかる費用が監査費用であり、投資家が間接的に負担しています。ファンドごとの手数料の差はほとんどなく、純資産総額から日々差し引かれ ています。

IMAJ 資産運用業協会
資産運用業協会 検索

しっかり見れば、投資信託が見えてくる

まるわかり!!
投資信託の
運用報告書
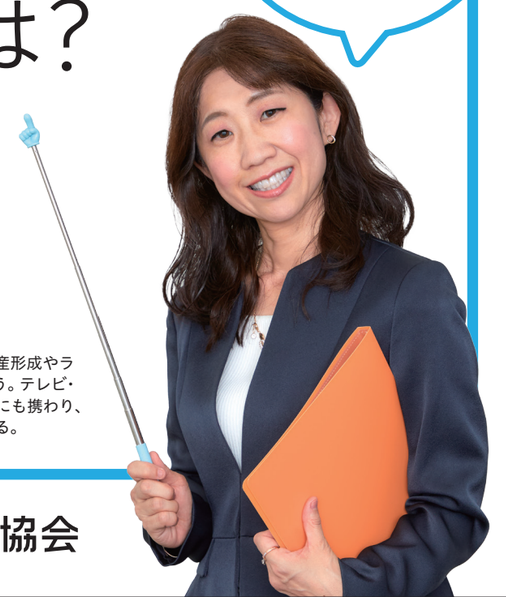
Check Point 1 実績は?

Check Point 2 投資環境は?

Check Point 3 コストは?

Check Point 4 今後は?

ポイントをおさえればカンタン!



高山（たかやま） 一恵（かずえ） 先生
ナビゲーター
ファイナンシャルプランナー

CFP®、1級ファイナンシャル・プランニング技能士。資産形成やライフプランニングをテーマに、講演・執筆・相談業務を行う。テレビ・ラジオなどのメディア出演や金融教育コンテンツの発信にも携わり、幅広い世代に向けてお金の知識をわかりやすく伝えている。

資産運用業協会

運用報告書は、むずかしくない!

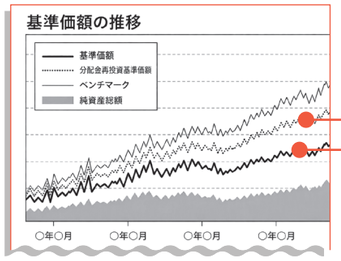
4つのポイントをチェックしましょう。

1 運用実績　2 投資環境　3 費用明細　4 今後の運用方針

Check Point 1

運用実績

運用実績のページでは、決算期間中におけるファンドの運用結果が確認できます。ファンドの値段である基準価額や、ファンドの規模を表す純資産総額の動きがグラフなどでわかるようになっています。ファンドが運用の指標に定めているベンチマークとの比較もできます。年間騰落率の表では、ファンドがどれくらい値上がり、値下がりしたかが数字で確認できます。



ここをCheck

「基準価額の推移」ではファンドの値動きが確認できます。市場平均の値動きを表すベンチマークと比較することで、ファンドの値上がり・値下がりが市場環境によるものなのか、ファンドの運用によるものなのかがわかります。

ここをCheck

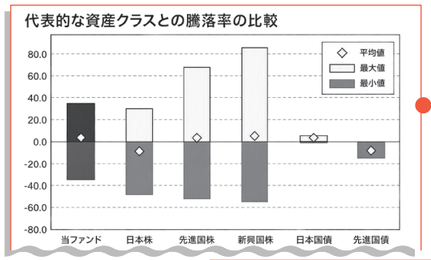
ファンドは、分配金を支払うと基準価額が下がります。そのためファンドの実質的な運用成果は**分配金再投資基準価額**の動きで表されるといえます。

騰落率や純資産総額の推移

決算日	○年○月○日	○年○月○日
基準価額（円）		11,665
期間分配金合計（円）		300
分配金再投資基準価格騰落率（%）		0.8
ベンチマーク騰落率（%）		△2.7
純資産総額（百万円）		62,662

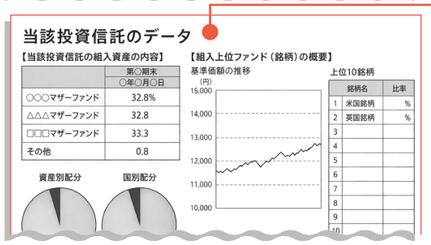
ここをCheck

アクティブ型のファンドは**ベンチマーク**を上回る運用成果を目指し、インデックス型のファンドは**ベンチマーク**と同じ値動きを目指します。その目標通りの値動きになっているかチェックしましょう。



ここをCheck

ファンドの**値上がり・値下がりの幅を他の資産と比較**することができます。また、**組入資産の内容**なども見ておきましょう。



FPからひと言

交付運用報告書には、最近5年間の基準価額等の推移が記載されています。直近1年間の動きだけではなく、長期的な動きを把握することが大切です。



運用報告書って、なに?

運用報告書とは、投資信託（ファンド）ごとに運用成果や運用にかかった費用などの情報がまとめられたもので、「交付運用報告書」と「運用報告書（全体版）」の2つがあります。**交付運用報告書は必要最低限の情報をわかりやすく説明**することを目的に決算期※ごとに作成され、ファンドの保有者に販売会社を通じて交付されます。

より詳しい情報が記載された運用報告書（全体版）は、ファンドの保有者が希望した場合に交付されます。ファンドを保有していない人でも、運用会社のホームページ上で運用報告書を確認することができます。

※ 年に1回決算があるファンドは年に1度、年に2回決算があるファンドは年に2度、運用報告書が交付されます。毎月決算型などの決算期間が6ヵ月未満のファンドの場合は、運用報告書の作成・交付のタイミングは6ヵ月に1度と法令に定められています。証券総合口座専用のファンド「MRF（マネー・リザーブ・ファンド）」については、運用報告書が作成・交付されませんが、運用会社のホームページまたは販売会社で入手できる月次のレポートで運用状況を知ることができます。

Check Point 2

投資環境

運用会社がファンドを運用するにあたり、期間中の投資環境はどうであったか、その環境下でどのように対処したのかなどが詳しく書かれています。ファンドが、なぜ今の成績になったのかを知る手がかりになります。多少難しい表現があるものの、そのファンドがどのような出来事の影響を受けるのかを学ぶきっかけとして活用することもできます。

投資環境について

当期は世界的に株式市場が＊＊＊＊
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

FPからひと言

現状の投資環境と合わせて、「今後の見通し」などのページも確認しておくと、保有している投資信託の運用方針が理解しやすくなり、今後の投資判断の見通しが立てやすくなります。



Check Point 3

費用明細

決算期間中の運用にかかった「信託報酬」「売買委託手数料」「その他費用」といった費用がまとめられています。1万口当たりの費用で掲載されるので、自分が投資しているファンドは他の類似ファンドと比較して運用コストが大きいのか、小さいのかがわかります。

1万口当たりの費用明細

項　目	当　期 (0.00～0.00) 金　額	比　率
信託報酬	XX 円	X.XX％
（投信会社）	(XX)	(X.XX)
（販売会社）	(XX)	(X.XX)
（受託会社）	(XX)	(X.XX)
売買委託手数料（株式）	X (X)	X.XX (X.XX)
その他費用 監査費用	X (X)	X.XX (X.XX)

ここをCheck

株式に投資するファンドの場合は、「**売買委託手数料**」が記載されています。その他費用には、監査費用や法定書類等の作成・印刷関連の費用などがあります。

ここをCheck

信託報酬（運用管理費用）とは、ファンドを管理・運用してもらう対価として、投資家が保有期間中に間接的に負担する費用のことです。ファンドの運用財産のなかから毎日差し引かれます。ファンドの運用目標や投資手法によって必要になる経費も異なるため、信託報酬はファンドごとに異なります。

FPからひと言

信託報酬などの把握も大切ですが、実際に発生した「実質コスト（総経費率）」を把握することで、全体でどれくらいのコストがかかったのかを把握することができ、見かけのコストに惑わされなくなります。